

(別紙)

はくさんてどりがわ 「白山手取川」の概要

1. 構成自治体

石川県白山市（1市）

※申請者：白山手取川ジオパーク推進協議会

2. 面積

総面積 754.93k m²

3. 特徴

「白山手取川」は、世界を代表する中生代白亜紀前期の化石産地であり、東アジアにおいて最初期の古生物学的研究が行われた場所となる。恐竜を含む多種多様な動物化石や植物化石が報告されており、多くの種の生物進化と東アジアの白亜紀の環境を考えるうえで世界的にも重要な地域である。

本地域の最高峰である活火山の白山周辺は、世界的にも最も低緯度に位置する豪雪地帯であり、また、隆起速度の速い地域である。短い手取川における上流から下流までの変化は、激しくかつ高速な日本の地形発達を象徴しており、激しい変動帯である日本列島と日本海側の多雪という自然環境の特徴がよく表れた地形が見られる。

白山は、古来より雪山の象徴として受け止められ、「越のしらね」として文学の世界でも1000年近い歴史を持つとともに、全国に白山神社が約3000社と広がる白山信仰は、日本有数の山岳信仰である。

なお、「白山手取川」の登録地域の一部は、白山ユネスコエコパーク（正式名：生物圏保存地域／Biosphere Reserves (BR)）と重なっているほか、白山国立公園等の保護地域にも指定されている。

4. 経緯

令和2年11月 ユネスコに申請書を提出

令和4年10月 ユネスコ現地審査員による現地審査

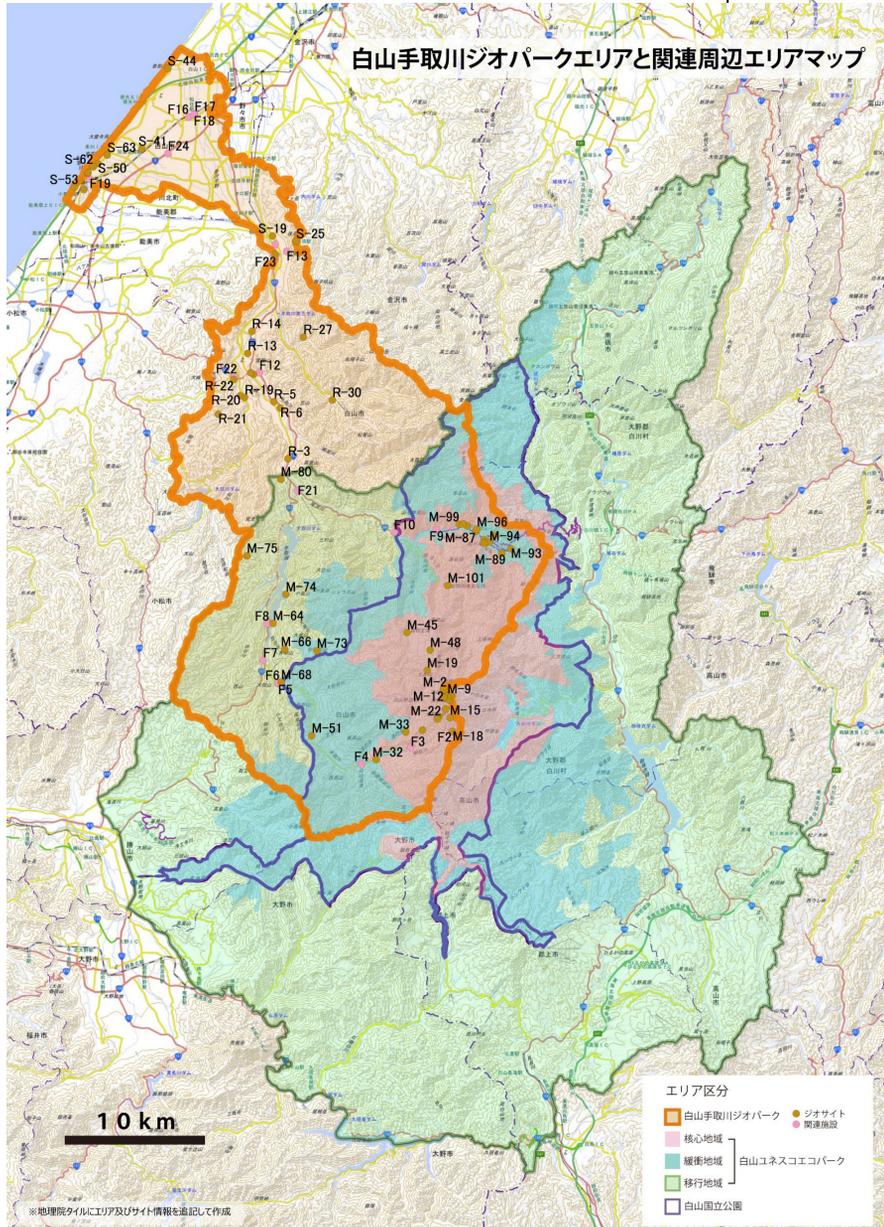
令和4年12月 ユネスコ世界ジオパーク・カウンシルにおける審査（「認定」を勧告）

令和5年5月 第216回ユネスコ執行委員会において認定

「白山手取川」の位置等



ユネスコ世界ジオパーク 「白山手取川」の登録地域



【参考】

白山ユネスコエコパーク



白山国立公園



※地図は白山手取川ジオパーク推進協議会から提供

ユネスコ世界ジオパークについて

国際的に価値のある地質遺産を保護し、そうした地質遺産がもたらした自然環境や地域の文化への理解を深め、科学研究や教育、地域振興等に活用することにより、自然と人間との共生及び持続可能な開発を実現することを目的とした事業。

認定総数は、48か国、195地域（2023年5月24日現在）。

※申請にあたっては、地質遺産の特徴、申請地域の文化的背景や自然・文化遺産との関係、管理運営体制、教育・研究・経済活動の状況、関係者との連携や地域住民の参画といった項目に関する説明が求められる。

日本国内のユネスコ世界ジオパーク（10か所）

教育 **研究** **観光**

地域の文化

糸魚川・親不知

山陰海岸・鳥取砂丘

白山手取川・手取川扇状地

隠岐・国賀海岸

島原半島・早崎玄武岩

阿蘇・中岳火口

室戸・室戸岬

伊豆半島・堂ヶ島

アポイ岳

洞爺湖有珠山
昭和南山・洞爺湖・中島

教育: 人々が自然環境を学ぶ様子

研究: 地質遺産に関する調査の様子

観光: 美しい自然風景を楽しむ様子